

1. 貨幣需要と貨幣供給に関する参考文献

- ・福田慎一・照山博司著『マクロ経済学・入門』(第2版)有斐閣、2001年:第5章
- ・小宮隆太郎+日本経済研究センター編『金融政策論議の争点』日本経済新聞社、2002年

2. 貨幣の3つの機能

- ・もし貨幣がなかったら、生活するうえで大変に不便 人類は貨幣を生み出した
- 価値尺度** (貨幣でモノの値段を示す)・・・相対価格も簡単にわかる
- 交換手段** (商品やサービスの取引で貨幣を用いる)・・・「欲望の二重の一致」は不要
- 価値の保蔵手段** (将来の消費のために貨幣を保存する)・・・貨幣は安全資産

3. 貨幣需要の3つの動機

- ・人々が貨幣を需要するには、色々な動機がある
- (1) **取引動機**: 交換手段として貨幣を持つとする動機。経済活動の活発さに比例する
- (2) **予備的動機**: 予期せぬ出来事に備えて貨幣を保有しようとする動機。不確実性と比例する
- (3) **投機的動機**: 金融資産選択の一つとして貨幣を保有しようとする動機。金利観などで動く

4. 日本の貨幣供給: 日本銀行が統計を作成・発表、ホームページ (<http://www.boj.or.jp/>) に掲載

- ・貨幣とは、対象金融機関(定義により異なる)が負債としている通貨性のある金融商品
- ・一般に **貨幣 = 現金通貨(紙幣+補助貨) + 預金** (預金は支払いなどに用いられる)
- ・色々な定義 **M1 = 現金通貨 + 預金通貨(要求払い預金)**
M2 = M1 + 準通貨(定期性預金)・・・M2 + CD(譲渡性預金) という形も
M3 = M2 + 郵便局・農協・信用組合等の預貯金 + 金銭信託・貸付信託元本
広義流動性 = M3 + CD + 現先 + 金融債 + 国債・FB + 投資信託等 + 外債
- ・2004年9月の残高: **現金通貨** 68.1兆円、**M1** 359.5兆円、**M2 + CD** 693.8兆円、**M3 + CD** 1,130.6兆円、**広義流動性** 1,370.7兆円
- ・これらのうち、**M1**、**M2 + CD**、**広義流動性** がよく注目されている

5. 貨幣数量説

- ・フィッシャーの交換方程式 $MV = PT$
M: 貨幣の流通量、V: 貨幣の流通速度、P: 一般物価水準、T: 経済全体の実質取引量
- ・ケンブリッジ方程式 $M = kPY$
M: 貨幣の流通量、PY: 名目国民所得、k: マーシャルのk
- ・貨幣の流通速度V(あるいはマーシャルのk)やT(あるいはY)一定ならば、貨幣量と物価は比例する
物価の変動は貨幣量の変動で説明できるという見解もある・・・マネタリスト
- ・本当にVやkは一定か?・・・一定でなければ、MとPの比例関係は成立しない筈

6. 貨幣需要関数

- ・ケインズ派は、 $M/P = L(Y, i)$ と考える: **流動性選好理論**
貨幣需要LはYだけではなく(利率)の関数でもあるとの考え: 左辺は実質貨幣供給量
たとえば、取引動機はYの関数、予備的動機や投機的動機はiの関数との見方も
- ・金融自由化・制度改革や金融技術革新などによって貨幣需要の安定性が損なわれる可能性
たとえば、定期性預金のペイオフ解禁(2002年)に伴って流動性預金に大幅にシフト

7. 貨幣需要や貨幣供給を巡る論争

- ・「流動性の罫」の議論: 金利が低下すると、貨幣需要の利子弾力性が無限大になる?
- ・貨幣供給量は誰がコントロール?: 中央銀行がコントロール可能?
貨幣の定義によって異なるのでは?(金融制度の変更が影響している可能性も)

以上